

祝第 86 回都市対抗野球大会出場

都市対抗野球出場新聞報道毎日新聞・スポニチ・ニッカンスポーツ・サンスポ各紙より抜粋致しました。(別紙掲載)

報道によると投手陣は八王子グランドから東京ドームに向かって 5 時間かけマラソン走行致しドームへ、出場が出来て走った甲斐があったと重信投手談

重信投手は東大時代 4 年の秋季シーズン六大学 49 連敗を立教大戦で止めた経験あり。林監督曰く会社より即戦力だから(社業に)早く戻してと要請されているとのこと。

大野選手は昨年春大怪我で 1 年をリハビリに徹し今季へ情熱を傾けていた。林監督も大野選手の努力を高く評価していた。(監督談)

昨年の日本選手権大会予選で社会人野球チームの強豪 JX-ENEOS を破り関東代表。本大会一回戦 HODA 鈴鹿に勝利。関東リーグ手もブロック代表で関東選手権大会に出場と選手に自信が芽生えた感じがする。

今シーズンに入り公式戦では芳しい成績は残せなかった関東リーグ 3 連敗・東京都企業春季大会初戦 JR 東に 4-1・東ガスに 4-2 で敗れ順位 6 位と低迷していた。

長野大会で昨年都市対抗優勝の西濃運輸に競り勝ちブロック代表決勝トーナメントに出場と若干チーム力が高まり都市対抗野球大会東京都二次予選に向かって調子を上げてきた。

小生が 5 月 22 日八王子グランドで JFE 東日本とのオープン戦を観戦致しましたが勝敗は別として投手陣が見違える程安定感が増した。何よりコントロールが良くなり無駄な四球が無くなった。打撃陣も泥臭くなり繋ぎが良くなり 2 死からでも得点出来るようになり頼もしく感じた。

昨年から就任された林監督の意向を選手が感じ取り一步一步逞しいチームに変貌、正直若干の希望を胸に 5 月 26 日を迎えいざ戦いを観戦し投手陣大久保・古田・重信・鈴木 4 投手の熱闘と 9 回 2 死満塁から 1 番宮川が 0 ボール 2 ストライクから粘って四球を勝ち取り押し出しで同点は痺れた。

18 回守備で素晴らしいプーレーでチームを救った竹内(和)が 18 回裏先頭打者で劇的なサヨナラホームランをレフトスタンドにボールを運びこんだ。

準決勝の鷺宮戦も 9 回先取点奪われ断崖絶壁と思いきや 2 番代打の宮川ヒット 3 番荒川がライト前に繋ぎ無死 3・1 塁、4 番加藤が犠牲フライで同点、5 番代打大野の時相手投手暴投で 1 塁ランナー荒川が二塁へ、奇跡がここで起こる代打大野はこれまで公式戦での打点は無いが相手投手の球を直球に絞りバットをコンパクトに振り抜いた打球はレフト線を抜くサヨナラ二塁打二塁から荒川が逆転のホームイン。またしても伏兵が勝利を呼び込んだ。

東京ガスとの第一代表決定戦は前半しぶとく繋ぎ 1・4 回に各 1 点を取り先発大久保投手の好で回まで 2-0 でリードするも 7 回併殺崩れから 1 点失点(セカンドの送球ミス)9 回も先頭打者のセンター前の打球を捕球出来ず後ろに逸らしピンチを招き外野犠牲フライで同点に。10 回サヨナラのチャンスも後続断たれ 11 回に 2 ランホームランで第一代表の夢は消えた。

第二代表に繋ぐ対戦相手は春の大会一回戦で戦って敗れた JR 東日本(2 対 4)。相手はここ数年東京都社会人野球のリーダー格のチーム、挑戦者精神、1 回表繋ぎの打撃で先取点・2 点目と続きこの日 7 番にスタメン出場の大野選手が林監督の期待に応え 2 死 3・2 塁から見事レフトスタンドへ 3 ランホームランで初回 5 点のビックイニング。(今までの試合(3 試合)での得点が 6 点)

先発古田投手が 4・2/3 イニングの好投(4 安打 1 失点)。重信投手は 2 死 1 塁の 1 ボール後救援、1 ボール 2 ストライクから 3 塁打を浴び 1 失点。5 回以降 7 回まで得点を与えず。

その間、打撃陣は 5 回 2 死から 4 番加藤がレフトへクリーンヒットここでまたもや今日打順を 5 番に昇格した野地捕手が欲しかった得点を見事ライトポールに直撃のため押し 2 ランホームランで 7 点目が入る。林監督の読みが全ての的中する

重信投手は 8 回 3 安打で 1 点失うも以降抑え 9 回裏先頭打者を内野ゴロで 1 死続く打者を三振ラストバッターも見事連続三振に打ち取り念願の第 86 回都市対抗野球大会東京都第二代表を勝ち取った

林監督・選手諸君・スタッフ・野球部 OB の皆さん本当におめでとうございます。

待ちに待った明治安田硬式野球部ファンの明和会の皆様おめでとうございます。

野球部広報として明和会ホームページでご支援戴きました Y さん・T さん本当にありがとうございました。

正直予選突入以前はここまで選手諸君の勝利への執念が芽生えいたことに驚きを感じさせられた。レポートでいつも勝手気ままな放言を言って恥ずかしい限りです。

でも好き勝手な事を書かせてください・一球・一打・一点の重みを常に書き続けてきました。

今大会では選手諸君の一球・一打・一点の重みが十分感じ取れました。

これからも明治安田のファンでありたい・・・・

皆さん東京ドームお会い致しましょう・・・・

2015 年 6 月 8 日

土田唯雄